
魔法少女リリカルなのはU F D-unforgiven destroyer-

優氣凛々

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

魔法少女リリカルなのはUFD - unforgiven des
troyer -

【Nコード】

N3453Z

【作者名】

優氣凛々

【あらすじ】

少年は光をもたらし、闇へと誘う紛い物…

故に許されざる者 - unforgiven - …

そして、全てを守るため、障害を全て破壊する破壊者 - destr
oyer - …

彼は何を守り、何を壊すのか…

魔法少女リリカルなのはUFD… 始まります。

魔法少女リリカルなのはの二次創作です!!
苦手だと言うかたは今すぐ回れ右してください!

なお、ちょいえっちい表現が出てしまう場合もあるので、それも苦手だと言うかたは今すぐ回れ右してください!

プロローグ (前書き)

優氣凛々「私はいろいろ小説作ってるのに……バカなんですかね……？」

とにかく、よろしくお願いいたします！」

プロローグ

春…まだ雀が鳴く声が響くくらい朝早く……海鳴市の朝は海のさざ波の音と日の出と共に始まる……

そんな海鳴市のとあるマンションの一室……全40階の高層マンションの38階……3802号室で……天魔^{てんま} 神^{じん}が生活を営んでいる。

神「……朝か…んっ！んっ！んっ！よく寝た。」

部屋のベッドからのっそり起き上がった少年は…髪の毛が右側が黒、左側が白と…不思議な色をしていて、目が右側が赤、左側が緑といういわゆるオッドアイというやつである。

そう、この少年の名は皆が想像した通り、天魔 神である。

神はベッドの横にあるテーブルに置いてある眼鏡を取って顔にかけた。

神「…まだ3時だ……眠くないし…少し手の込んだ料理つくるかな？」

神がベッドを立ち上がると……

？《おはよう、神！！》

？《おはよう、我が主よ！》

何処からともなく声がする……すると、神は首につけていたチヨーカーに付いている黒、白、2つの十字架に手を添え、

神「おはよう、ガブリエル」

白い十字架をガブリエルと呼び撫で……

神「おはよう、ベルゼピユート」

黒い十字架をベルゼピユートと呼び撫でた……

ガブリエル《今日は早起きだね？よく寝ないと体にさわるからね？》

ベルゼピユート《そうだぞ我が主……。主の健康は私の喜び……主に何かあったら面目立たんわ……》

ガブリエルとベルゼピユートは神の身体を気遣っていた……。

神「大丈夫、問題なしさ さあて、今日も学校だから手の込んだ弁

当でもつくるかな!!」

ガブリエル《それはいいね 神の料理はどんなレストランにもひけを取らないから楽しみ》

ベルゼビュート《それはそうであろうガブリエルよ…主は容姿端麗、才色兼備なのだ!我が主にふさわしい男なのだぞ!!》

神「ハイハイ、んじゃ行こうか!」

そして神はキッチンへと足を運ぶ…

天魔 神の非日常は…どんどん近づいて来ていることを……誰も知らない…

魔法少女リリカルなのはUFD・UnForgiven Dest
royer……: 始まります。

プロローグ (後書き)

オマケ

神「それにしてもさ……」

ガブリエルとベルゼブュートが十字架なのはいいよ？

何故にチョーカー？あれか？僕にMになれと？」

チョーカーなのは、単にネックレスなどありきたりな為に趣向
替えです趣向替え。

人物紹介（前書き）

優氣凛々「人物紹介します！！若干ネタバレあり！見たくない人は
回れ右してください！」

人物紹介

主人公

名前：天魔てんま 神しん

年齢：15歳

性別：男

身長：170?

体重：68?

好きな/得意なこと：

剣術、和もの、身体を動かす、友達/料理、剣術、勉強

嫌いな/苦手なこと：

人付き合い、自分の大事なものを傷つける行為/犬、女の子

外見的特徴：髪の毛が右側が黒、左側が白

目は右側が赤、左側が緑といういわゆるオッドアイ。眼鏡を着用（
ド近眼のため）

顔はやや男寄りだが、中性的な顔つきに見えなくもない。

引き締まっっていてちょうどいいくらいの体つき。

魔導師ランク：ガブリエル：S+

ベルゼピュート：SS

詳細：

”大天使ガブリエル”と”魔王ベルゼピュート”と契約している少

年。チョーカーに付いている黒、白の十字架にそれぞれ封印して
て、どちらかを取ると付いている十字架に依存した力を使える。
性格はかなりめんどくさがり。しかし、人が困っているとついつい
首を突っ込みたがる。
しかも人想いで親切なため、時間にルーズ。正直者でストレート発
言がポロリするときがある。
聖祥大学附属中学校3年2組で、高町 なのは等とは面識はあるも
のの話したことはない。

高町 なのはが魔導師に襲われているところを力を使い助けた為
に面倒に巻き込まれるはめに…
デバイスは持っていないが、自分の愛刀”ムラマサ”を使う。

名前：ガブリエル

年齢：157,000歳

性別：女

身長：150?

体重：

好きな/得意なこと：

昼寝、神、神の料理/探知、防御、遠距離攻撃

嫌いな/苦手なこと：

身長の指摘、神を傷つける行為/料理を作る、運動

外見的特徴：髪の毛が純白。目は緑。かなり幼児体型。しかし胸は
ある。翼3対生やし、布を巻いたような服を来ている。

詳細：神と契約している大天使。天魔家は代々天使と悪魔を使役する能力を有しており、神と契約した。神を心から敬愛し、母親のような存在。

ベルゼビュートとは本来仲が悪いが、神の仲介により和解。かなり仲が良くなった。

防御、回復が得意。

神の使用時：髪の毛が純白に変わり、身体を透明なベールが包み、天使の翼3対を生やす。ムラマサを防御ベールで包み敵の攻撃を無力化する剣技”絶対防御ノ刀”^{イジスソード}が使える。

名前：ベルゼビュート

年齢：158,400歳

性別：女

身長：162?

体重：

好きな/得意なこと：

神、神と共闘する事、可愛いもの/近距離戦闘、身体強化

嫌いな/苦手なこと：

神を傷つける行為、神にまとわりつく女/言葉を選ぶこと、加減

詳細：神と契約している魔王。経歴はガブリエルと同じ。

ガブリエルと対極のように近距離戦闘、身体強化が得意。性格は神一筋でツンデレとヤンデレを足して2で割った感じ。口下手で他人を傷つけることがしばしば。神もほとほと困っている。

神の使用時：髪の毛が漆黒となり、防護服”ベルゼベール”を着用する。上が黒のアンダーアーマー、グローブ、下が黒のレギンス。頭に1対の角、背中に翼が生える。一撃粉碎の剣”破壊ノ刀”ラクナロクソードを使用する。

技説明：

覇哮鱗はこうりん

ガブリエル時の誘導弾。光輝く球体を打ち出すスキル。
限界産生弾数が1回40発。

覇鳳轟はほうこう

ガブリエル時の長距離砲撃。威力はなのはのデイベインバスター並み。違いは複数同時展開が可能なこと。最大4こ

摩天楼まてんろう

ベルゼビュート時の抜刀術。身体強化で高め、音速を越える抜刀を繰り出し相手を斬る。一閃はつこう八剛まである。

魔滅黒火まめつしつか

ベルゼビュート時の剣技。剣に漆黒の魔力を纏わせ、相手を斬る。威力はなのはのスターライトブレイカー並み。

第1話「魔導師」(前書き)

優氣凛々「またなんとも言えないぐだぐだ加減だな…」

でもまあ、読んでやってください…」

第1話「魔導師」

聖祥大学附属中学校……

小学校から大学までエスカレーター式で上がれるため何かと楽なのだ。

今の時刻は朝8時25分。授業開始は8時30分。ギリギリの時間帯である。神の家から学校まではおよそ20分かかる……

神はいつも8時には家を出る……もう学校に着いてていいのだが……

神「おばちゃん、ここまででいいかい？」

おばあちゃん「助かったわあ！！ありがとう神ちゃん！」

神は学校まであと5分くらいのところで30歳くらいのおばちゃんの荷物を運んでいた。……遅刻確定である。

神もおばちゃんと別れ、腕時計を見るやいなや……

神「……遅刻確定か……仕方ないよなあ……」

自分で自分に呆れていた。

実はこうした遅刻パターンが時々あるのだ。ないときはないが、あるときは昼休みまでさぼらされる時もある。

ガブリエル《お人好しが過ぎると思うよ?》

ベルゼピュート《我也同感だ。》

神「うーん……でも直すつもりはないんだよね。全く面倒だし……」

二人《《自分のことを面倒くさがってどうする?》》

神「あはは……まあ勉強は大丈夫でしょ?人並みにはできるしね?」

二人《《そういう問題じゃない!》》

ガブリエル《……神の未来が心配になってきたね……》

ベルゼピュート《……全くだ……》

と、ガブリエルとベルゼピュートとだべりながら、神は学校へと足を運んだ。

先生「……………2年の時も同じ理由だからだいたいわかるけど……
どうして遅刻したの？」

現在、一時限目が終わった時間。担任の先生はもはやあきれた顔で神を見ている。因みに先生は女性です。

神は臆することなくさらりと

神「今日はおばちゃんの荷物を運んで、あと少しのところでおじいちゃんの横断を手伝いました！」

しかも、ガッツポーズとどや顔で先生に言った。

先生「あなたねえ……………お人好し過ぎないかしら？もう少し時と場を考えてよ？」

神「無理です！面倒だし……………じゃなくて、今さら直りません！！」

先生は机にうなだれた。神は素晴らしく正直者で、本音を言ったあとに嘘をつくから嘘が嘘になっていないのだ。

先生「わかったわ……………とにかく教室に行って授業受けなさい……………」

神「わかりました〜！」

クラスから白い眼を浴びせられた。全員でないにしろ、約半数はそうであろう。

神はそんなことお構いなしにずかずかと自分の机に座った。

男子「おい…また遅れて来やがったぜ？あいつ…」

女子「目付きも怖いし…髪の毛染めてるし…不良よね…」

座った途端に始まるひそひそ話…聞こえて来るのは罵詈雑言の数々…

そんな話をBGMに、神は教科書を開く。

神（はぁ…別に悪いことしてないし、地毛なんだってば…全く面倒な…）

そう、神は髪の毛が半分白く、半分黒い。しかも、中性的な顔つきに合わないつり目…

不良とされるのは致し方ないのだが…腑に落ちない。

神（突っ込むのは…まずはオッドアイをすべきじゃ？）

しかし、大抵はひそひそ話をされて終わりなのだ。何故なら…

- 数学の時間 -

バーン!!!

と言わんばかりに黒板にはびつしりと問題が書いてある…しかも中学生ではなく、教授が解いている、懸賞のかかった難題が…

先生「んじゃ〜…高町！これを解いてみる！！」

高町「ふえ…！？うえ〜と…先生？まずその問題、中学生の問題何です…？か？」

カリカリカリカリカリカリ…

キュツキュツキュツ…

カリカリ…カリカリ

先生「そうじゃろ？そうじゃろ！！いくら数学の成績がトップの高町でもこの問題は「せ…先生？後ろ…」なんじゃいなんじゃい！せつかく高町いじりを…堪能…しとって…」

神「あ…すみません先生、困ってたっぼくてつい…でも、これってこうですよ…ね！！」

カリカリ…トン！

そこにはびっしりと式等が書いてあり、きちんと答えも出ていた。

神「そいじゃ、おせっかいでした！」

スタスタスタスタ…

先生含め全員『……………』

・ 体育の時間 ・

神「てな訳で行きますよー!!」

先生「位置についてー……………ドーン」

バアーン!!

ダッ…!!……………

神「ゴール!!100メートルって長いなあ……」

先生「100メートル……9秒2!？」

男子全員『……………』

- 昼休み -

ガブリエル《神……いつも思うけど……あなたの人付き合いの悪さを覗いたら……》

ベルゼビュート《……主はかなり人気があってもおかしくないの……》

神「はむっ!!……………うーん、そうなんかなあ?僕にやわからん!」

神は人気のない校舎裏で昼を食べていた。

神がこれ以上いじめが発展しない理由……やることをやってないように見えてかなりスペックが高いからだ。

逆を取れば、それゆえに人が近づかないのだ。

しかし……

「にゃん」

「クウーン」

動物にはめっぽうもてるのだ。

神「ほいほい、ご飯だね……?」

その時……少し空気に違和感を覚えた。なんと言っか…
急に空気が重く、はりつめた感じになったのだ。

神「なんだ……!?!」

空を見ようと上を見上げた。すると…

桃、金、二つの光が輝いていた。しかしその光はすぐになくなって
いった…

ガブリエル〈神〉……さっきの光は魔力だよ!!しかも……魔導師が
デバイスを使った時の!」

神「……!!流石ガブリエル!探知能力はずば抜けてるね!…事件の
匂いだ…」

そして神は……早退届けをだし学校を休み、光の反応を追った。

その際、自宅に戻り愛刀”ムラマサ”を手にして……

- 廃工場 - sideなのは -

なのは「次元犯罪者……ドル・ドルトムント！貴方を婦女暴行と殺人、管理外世界での魔法使用の罪で現行犯逮捕します！！」

私はさつきまで学校でしたが、時空管理局から”ランクSの犯罪者がそちらに来た”って聞いて…飛んで来ました！

ドルトムント「ちい……ここは管理外世界だぞ！ならば、お前らの法律は聞かないはずだ！！」

ドルトムントさんの後ろには……あられもない姿で横たわる女の子たちが……

なのは「なら私の私情で言うよ！！女の子を犯すなんて許さないよ！！今ここで捕まえる！！！！」

そこで私は愛機”レイジングハート”に魔力を込め……

なのは「アクセルシューター！！！！」

レイジングハート《accel shooter！！》

10個の魔力弾を作ったけど……

ドルトムント「かかったな！」「ダークバインド」！！！」「

なのは「きゃあああ！！！」「

黒い鎖のようなものに身体を縛られてしまって、魔法が解けて……バリアジャケットから制服に戻ってしまった。……どうしよう！？

ドルトムント「へへへ……よくみりゃ可愛いな……
食べちゃおうか？」

なのは「いや……いやだよ！！……いやあああああ！！！」「

ドルトムントが近づいてきて……制服に手をかけた……その時……

？「制服からして……聖祥大学附属中学校の子だね？

困ってるようだから……おせっかい失礼……」

何処からともなく声が聴こえ……

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3453z/>

魔法少女リリカルなのはUFD-unforgiven destroyer-

2011年12月13日06時47分発行